


ふりがな 氏名	しのだ まほ <b>篠田 真穂</b>	都道府県	<b>東京都</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻</li> <li>・ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）インターン</li> </ul>			
私のESD活動	<b>実践（学生への経験の場作り）と机上での学習（大学での研究）を繰り返し行いながら ESD を模索しています</b>			
ESD活動を表すキーワード	<b>つながり</b>	Think globally, Act locally	SDの3本柱（経済・社会・環境）のバランス	

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

私は今まで「研究」という形で ESD に関わってきました。私と ESD との出会いは大学 3 年時です。それまで私は、YMCA でボランティアリーダーとして発達障がいがある子どもたちと関わる中で、日本の画一的な教育への疑問を持ちました。子どもたちの個性を伸ばす教育が日本の教育において可能なのか考えている最中、総合的な学習の時間の可能性に関して考えるようになりました。多くの事例研究や、学校訪問を重ねていくうちに、総合的な学習の時間を有効に活用している学校が「ユネスコスクール」だということがわかりました。このような積み重ねから、卒業論文では東日本大震災を機に定期的に訪問している宮城県亘理郡にある山下第一小学校にて ESD を軸にした総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行いました。それ以降、ESD の概念が国内に留まらず国際的な動きになっていることを知り、現在は大学院にて国際的な ESD の動向についての分析を行っています。

実践に関しては、一般社団法人くまプロジェクトで亘理郡山元町をフィールドに学生の経験の場の提供を継続的にこなしてきました。この団体では毎回の企画・運営も学生がすべて行います。私は、ESD の良き所の1つである机上の学習と実践をつなげることに焦点を当て参加学生の専門分野を実際に活かすことができるような企画をしています。一昨年の 12 月には芸術大の学生に参加を呼びかけ、地域のイベントであるイルミネーションのデザインから実施までを地域の方と共に行いました。彼ら学生の机上での学習が、震災で失われたコミュニティの再形成の一助となるような企画をし、現在も継続的なイベントとして毎年行われています。

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？**

今後は、ESD の実践にさらに力を入れていきます。今年末から、ある自治体の「子どもの遊び場（プレイパーク）」の運営に関わることになっています。そこでは、プレイパークを中心とした持続的なコミュニティづくりに貢献していく予定です。また、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）に昨年度からインターンとして関わっていますが、来年度からは職員として携わることになっています。そこでは、ユネスコスクールの普及と ESD 研究をさらに進め、今後 ESD の専門家を目指すべく邁進していきたいと考えています。このように、来年度からはプレイパークと ACCU の職員として研究と実践の両輪を回しながら、地に足のついた ESD の実践を着実に進めていく予定です。